



Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A

Treasury Department
Av. Paulista, 1274 – Bela Vista
São Paulo, SP – 01310-925

1. マーケット・レート

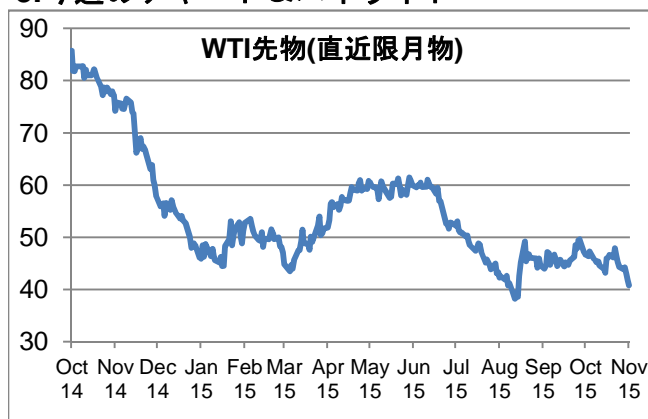
			11月9日	11月10日	11月11日	11月12日	11月13日	Net Chg
為替	USD/BRL	Spot	3.7990	3.7470	3.7610	3.7710	3.8490	+0.0780
	BRL/JPY	Spot	32.40	32.88	32.67	32.51	31.89	-0.62
	EUR/USD	Spot	1.0758	1.0710	1.0741	1.0798	1.0743	-0.0055
	USD/JPY	Spot	123.10	123.24	122.88	122.61	122.72	+0.11
金利	Brazil DI	6MTH(p.a.)	14.81	14.86	14.81	14.88	14.83	-0.0464
	Future	1Year(p.a.)	15.47	15.50	15.40	15.54	15.57	+0.0342
	On-shore	6MTH(p.a.)	3.274	3.238	3.192	3.098	3.301	+0.203
	USD	1Year(p.a.)	4.051	4.062	4.029	3.985	4.088	+0.103
株式	Bovespa指数		46,194.92	46,206.57	47,065.01	46,883.58	46,517.04	-366.54
CDS	CDS Brazil 5y		422.10	410.04	403.00	426.00	435.60	+9.60
商品	CRB指数		189.223	189.416	188.348	186.428	184.767	-1.661

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインディケーションです。実際のレート提示は弊社担当アカウント・オフィサーまでお問い合わせ下さい。

2. 週間市況、トピックス

- 今週のレアルは3.7760で寄りついた。先週末に発表された米10月雇用統計が市場予想を大きく上回ったことを受けてドルが底堅く推した。更に週末に発表された中国の10月貿易収支が予想より弱かったことを受けたリスクオフムードもあり、レアルは3.82台前半まで下落した。しかし、メイレス前伯中銀総裁がレヴィ伯財務相と交代する可能性があるとの憶測が広まり、財政改革進展への期待感からレアルは3.73台半ばまで急反発した。
- 伯中銀によるアナリスト予想集計では、2015年の経済成長率予想が-3.05%から-3.10%に17週連続で下方修正され、2016年予想も-1.51%から-1.90%に大幅下方修正された。インフレ率は2015年予想が9.91%から9.99%に上方修正され、2016年予想も6.29%から6.47%へ14週連続で上方修正された。
- 週央には米国祝日で流動性が薄い中、フローに振り回される相場となった。伯中銀仲値公表にかけでは大口のレアル買いが出た模様で、週間高値となる3.7060までレアルが買われた。しかし、米サンフランシスコ連銀総裁が利上げを強く示唆するコメントを出したことや中国の融資残高が伸び悩んでいることからリスクオフムードとなり、レアルは3.82台半ばまで反落した。その後、ダドリーNY連銀総裁らの発言で米早期利上げの期待感が後退すると、今度はドルが売られてレアルは3.75台まで反発した。
- 週末にかけては伯石油公社の決算報告の内容が弱かったことからボベスパ指数が軟調推移しレアルは売られた。米グリーンブランド総裁が利上げ開始の条件が整ったと発言したことから米利上げ期待が高まったこともあり、レアルは週間安値となる3.8500まで下落し、3.8490で越えた。

3. 今週のチャート&ハイライト



出所: Bloomberg

米利上げ期待再来で、リスク回避ムードから原油価格は年初来安値圏へ

米国の雇用統計や、米連銀総裁の講演内容からFRBによる年内利上げ期待が高まっている。マーケットではリスク資産売り圧力が強まっており、レアルは3.7台半ばから3.8台半ばへ下落した。原油価格は米国で石油在庫が引き続き増加していることから供給過剰懸念が高まっていることも相俟って軟調推移した。WTI先物は一時40.2台まで下落し、年初来安値37.75を伺う展開となっている。

当資料は一般的な情報提供のみを目的として作成されたものであり、特定のお客様のニーズ、財務状況又は投資対象に対応することを意図しておりません。また、当資料は、適用法令上許容される範囲内でのみ利用可能であり、当資料の頒布を制約する法令が存在する地域の方によって利用されることを意図しておりません。当資料内のいかなる情報又は意見も、預金、有価証券、デリバティブ取引その他の金融商品の売買、投資、保有などを勧誘又は推奨するものではありません。資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性、適時性、適切性又は完全性を表明又は保証するものではなく、当行、その子会社又は関連会社は、お客様による当資料の利用等によって生じうるいかなる損害についても責任を負いません。ご利用に関しては、すべて お客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料の内容は予告なしに変更することがあり、また、当行、その子会社又は関連会社は、当資料を更新する義務を負っておりません。また、当資料は 著作物であり、著作権法により保護されています。当行の書面による許可なく複製又は第三者、個人顧客もしくは一般投資家への配布をすることはできません。



Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A

Treasury Department
Av. Paulista, 1274 – Bela Vista

4.来週の為替市場注目点

予想ドル・レアル相場レンジ：3.70－3.95

今週は、先週末の非常に強かった米雇用統計を受けて、FRBの利上げ期待からリスクオフムードが続いた。レアルは米国の祝日を挟んで流動性が落ちたことや、複数の米連銀総裁講演で利上げ時期を巡る思惑が交錯したことから不安定な相場となった。ブラジルサイドの材料としてはレヴィ伯財務相とメイレス前伯中銀総裁の交代に関する憶測などもあり一時レアルが買われた局面もあったが、実現性や効果については未知数で、相場は直ぐに反転した。

来週は18日のFOMC議事録公表と各米連銀総裁の講演に引き続き注目が集まる。最近のFRBは利上げに対してタカ派の発言が目立ち、米金利先物市場は既に年内利上げの可能性を60-70%程度織り込んだ水準で取引されている。FRBの利上げを材料にしたドル買いはもう少し続く余地があると見られるが、じきに勢いを失いそうだ。G20、日銀政策決定会合、ECB議事録など重要なイベントが続くが、新たな材料は出て来づらいと見られる。レアルは安値を試した後、材料難から3.80を中心としたレンジ相場に転じると予想する。

5.本日の主要経済指標

国	イベント	予想	実績	前回
独	GDP(季調済/前期比)	0.3%	0.3%	0.4%
EC	GDP(季調済/前期比)	0.4%	0.3%	0.4%
米	小売売上高速報(前月比)	0.3%	0.1%	0.0%
米	PPI 最終需要(前月比)	0.2%	-0.4%	-0.5%
米	企業在庫	0.0%	0.3%	0.1%
米	ミシガン大学消費者マインド*	91.5	93.1	90.0

6.来週発表される主要経済指標

国	日付	イベント	期間	予想	前回
ブラジル	11/16	FGV CPI IPC-S	Nov-15	0.8%	0.8%
ブラジル	11/16	貿易収支(週次)	Nov-15	--	\$144m
ブラジル	11/16	登録雇用創出合計	Oct	-178900	-95602
ブラジル	11/16	税収	Oct	105500m	95239m
ブラジル	11/16	経済活動(前年比)	Sep	-6.1%	-4.5%
独	11/17	ZEW調査現状	Nov	55.2	55.2
ブラジル	11/17	FIPE CPI-週次	Nov-15	--	0.9%
ブラジル	11/17	FGVインフレ率IGP-10(前月比)	Nov	1.45%	1.88%
米	11/17	消費者物価指数(前月比)	Oct	0.2%	-0.2%
米	11/17	鉱工業生産(前月比)	Oct	0.10%	-0.20%
ブラジル	11/18	CNI産業信頼感	Nov	--	35.0
米	11/18	住宅着工件数	Oct	1160k	1206k
ブラジル	11/19	失業率	Oct	7.6%	7.6%
ブラジル	11/19	IBGEインフレ率IPCA-15(前年比)	Nov	10.25%	9.77%
米	11/19	景気先行指数(前月比)	Oct	0.5%	-0.2%

当資料は一般的な情報提供のみを目的として作成されたものであり、特定のお客様のニーズ、財務状況又は投資対象に対応することを意図しておりません。また、当資料は、適用法令上許容される範囲内でのみ利用可能であり、当資料の頒布を制約する法令が存在する地域の方によって利用されることを意図しておりません。当資料内のいかなる情報又は意見も、預金、有価証券、デリバティブ取引その他の金融商品の売買、投資、保有などを勧誘又は推奨するものではありません。資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性、適時性、適切性又は完全性を表明又は保証するものではなく、当行、その子会社又は関連会社は、お客様による当資料の利用等に関して生じうるいかなる損害についても責任を負いません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さい。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料の内容は予告なしに変更することがあり、また、当行、その子会社又は関連会社は、当資料を更新する義務を負っておりません。また、当資料は 著作物であり、著作権法により保護されています。当行の書面による許可なく複製又は第三者、個人顧客もしくは一般投資家への配布をすることはできません。